

水みらいプロジェクト2003

いたち川とわたしたちの暮らし  
～「いたち川と環境」の学習を通して～

富山市立堀川小学校 6年1組



# いたち川への愛着をいつまでも。

## 富山市立堀川小学校

学校長：恒田 勉先生

指導教諭：荒田 修一先生

発表児童：6年1組（34名）

堀川小学校は、立山連峰を仰ぎ見る富山平野の中央、富山市に位置します。今年130周年を迎えた全校児童数600名の学校です。

「自主創造」を校訓とし、自分で場所や方法を決めて環境を整える朝活動や、自分の考えをしっかりとって進める学習などを大切にし、一人一人が主体的に自分づくりや暮らしづくりに取り組んでいます。その成果を発表する教育研究実践発表会は、今年で74回を重ねています。



## ■ 発表テーマ ■

### いたち川と私たちの暮らし ～「いたち川と環境」の学習を通して～

富山市中心部を流れるいたち川の環境調査を通して明らかになってきたことから、いたち川と私たちの暮らしとの関わりについて発表。

ゴミ、生息する生き物、護岸工事、歴史…。

環境調査を通して様々な点に着眼し、その結果をベースにメッセージを発信。

## 荒田先生より

継続的な観察を通して、人間の生活といたち川の環境とのかかわりが明らかになりました。

年間を通していたち川の観察を続ける中で子どもたちはたくさんのことを学びました。市街地に流れるいたち川に、これほどたくさんの生き物が息づいているとは驚きでした。一方、人間が捨てたゴミの多さ、川岸のコンクリートに環境の悪化を心配しました。また、下水道工事や護岸工事に環境や安全を守る努力がなされていることなどから、子どもたちは、様々な視点から人間の生活といたち川の環境について考え、話し合いました。

これらの活動を通して、自分の暮らしをみつめ、身の回りの環境を敏感に感じながら環境を守ろうとはたらきかけていく姿を期待しています。



▲小学校最後の良い思い出になったね。



▲34人の個性が発揮されましたね。



▲クラスみんなで協力して発表。



▲ゴミで作った看板に会場はビックリ。



▲生活ゴミが本当に多い。モラルが問われます。



▲いたち川への愛着をより深めようね。

## 考えたこと・感じたこと

### 川への愛着が芽生え、これからの川とのかかわりを考えました。

県内最大の市街地を流れるいたち川は、ゴミ問題をはじめ多くの問題を抱えています。いたち川の観察、調査をして愛着がわいてきました。ゴミの多さに驚き、捨てた人のようになりたくないと思い、捨てたゴミで看板をつくらたりいたち川の歴史を学ぶことで、護岸整備に対する地域に住む人たちの意識や、意見がとても勉強になりました。私たちが大人になるまでに、一人一人が水の環境に敏感になり、いたち川を今よりも美しい川にして、ゴミの無いいろいろな生物が住める川にしたいです。

## 学習テーマの設定

いたち川の中で、学んだ大切なこと。  
4月から2週間に1回いたち川に入り、観察、調査を実施しました。継続的に何度も川に入るうちに、どんどん愛着がわいてきたね。



生活ゴミの種類と多さにビックリ。  
観察ポイントでのゴミ拾いで、様々なゴミがありました。「ゴミと一緒に、人間としての良心もすてるの?」と思うくらい驚いたね。

## 学習の展開

ゴミの中で強く生きる生物たち。  
末広橋付近には、ややきれいな水に住む生物や魚がいました。環境は決してよくないが、生命の強さに感動。もっときれいな川だったらいいのにな。



昭和からのいたち川の成長。  
昭和40年代、魚も住めないいたち川も、下水道の整備が進みきれいな川に生まれ変わりました。

護岸整備の波紋。  
地域の人は洪水を防ぎ安心してきる快適な生活を望みます。しかし、生物にとっては、コンクリートより自然の方が当然住みやすい環境。共生について考えさせられました。



地蔵が語る、洪水の歴史。  
1858年安政の大地震による立山カルデラ大洪水から生まれた地蔵群。石倉町の延命地蔵に由来がありました。

捨てたゴミで看板づくり。  
川に落ちている硝子の破片で作った看板。いろんなゴミ捨て禁止看板があるけど、人間の良心に届く看板だったね。

